

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口： 64297人
高齢者人口： 15532人
高齢化率： 24.16 %

高齢化率は、豊中市の25.4%からすると、低い圏域ではあるが、UR住宅のある、東豊中、北緑丘校区では29.79%、29.77%と高くなっている。また東豊台校区では、高齢世帯率が30.79%と3番目に高い数値となっている。これらの校区では、近隣との関わりが希薄な事や一人暮らしで認知症状があることなどで、問題が起こることがある。どの校区においても、坂道が多く、路線バスに乗ることが困難となると、ますます閉じこもることとなり、買い物、通院など日常の外出にも支障をきたす。公共施設が少なく、集まる場所が限られている。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

センター、分室と離れているが、毎朝、スカイプを使うなどで、ケースの共有を行っている。問題、課題については、全員で、検討している。経過報告も行い、全員で解決に向け取り組んでいる。

虐待や、認知症状のある方などの問題ケースにおいては多職種、複数職員で関わることを原則としている。

【特に力を入れて活動している点】

3カ所、定期的に出張相談会を開き、地域の課題の発見や、出向いての相談に応じた。

3校区で戸別訪問を 校区福祉委員、民生委員、コミュニティソーシャルワーカーとともに月1回ペースで行っている。

地域の課題に対しては、コミュニティソーシャルワーカーと密に連絡を取りあい課題解決に向けている。

【活動の中での課題やその解決策】

出張相談会の開催、定期的な戸別訪問、複数人数での訪問など行っているため、事務所待機の人数が限られる。

センター、分室に分かれたことにより、地域住民とは関係が密となったが、瞬時に伝達できなくなった。スカイプ、内線電話、携帯電話などを駆使し、一人での事務所待機時でも、相談に応じることができている。

総評

事業計画の進捗状況や個別ケースの情報共有に力を入れており、包括職員全員が共通認識を持って、業務に取り組んでいます。また、介護予防ケアプランについては、介護給付適正化事業において高い評価を得ていますが、他のケースにおいても同程度の記録が望まれます。全体的に記録やマニュアルの整備が求められます。

好事例

坂道が多いこともあり、定期的に出張相談会を開いたり、月1回の個別訪問を行うなど、高齢者の困りごとや地域課題の抽出に向けての取り組みを進めています。